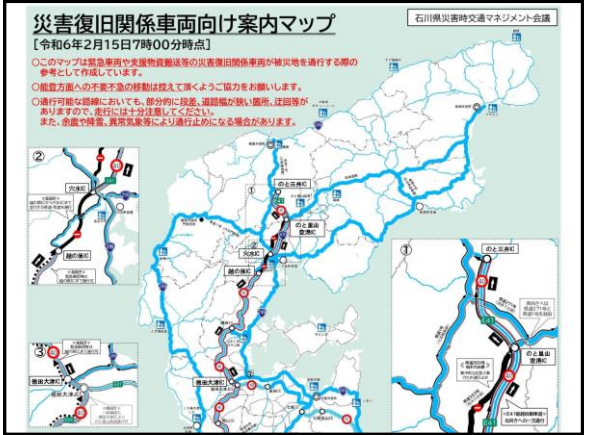


**主催：NPO法人グラウンドワーク三島**  
**能登半島地震支援活動「心を元気に富士山プロジェクト」**  
**珠洲市等被災現場調査報告会**  
**2024年3月16日(土) 18:00~20:00**  
**三島市民文化会館第2会議室(三島市一番町20-5)**

- ①被災地の現状報告と被災地支援の在り方、ツアーサポーターの役割とは  
 グラウンドワーク三島専務理事 渡辺 豊博
- ②高齢者・子どもの心のケア・福祉対策とは  
 三島市福祉応援大使 河合 孝彦 氏
- ③被災地を訪問しての感想と防災対策とは  
 グラウンドワーク三島事務評議員 大田黒 敦雄 氏
- ④参加者やツアーサポーターの皆様との質疑応答・意見交換



**能登半島地震支援活動「子どもを元気に富士山プロジェクト」**  
**「心を元気にするショートツアー」**  
**伊豆の「富士山麓の自然」富士山の山頂まで足を踏み出せる大人の日？**  
**～能登物の石子さんや親子、家族を無料でご招待します～**

NPO法人 グラウンドワーク三島

能登半島地震で被害を受けられた被災地の現状、喜んでお礼申し上げます。  
 私たちがグラウンドワーク三島には、夏は11月10日、秋は9月21日に被災地視察研修会というNPOです。  
 (1992年から31年間)にわたる活動を通じて、トータルした被災地の現状を伝えておけるものがあると  
 信じており、今回も「伊豆半島」視察研修会を開催いたします。また、秋の自然の美しさも堪能して  
 いただきます。富士山麓の自然の美しさも堪能していただきます。

かつて、東日本大震災に 500 人の被災者、親子三代  
 親子三代に家族旅行して登山し、その後の被災地支援活動、心  
 を元気にする活動を通じて、富士山麓の自然の美しさも堪能して  
 いただきます。被災地の現状を伝えておけるものがあると信じてお  
 り、今回も「伊豆半島」視察研修会を開催いたします。また、秋の  
 自然の美しさも堪能していただきます。

日程：2024年3月23日(土)～25日(月) 全3泊3日  
 (集) 2024年4月27日(土)～29日(月) 全3泊3日  
 (集) 2024年5月18日(土)～20日(月) 全3泊3日

● 対象者 親子40人未満、地震にて被災者家族  
 ● ツアー費 被災者の家族が参加費を支払う必要はありません。被災地視察研修会には、被災地の現状を伝えておけるものと信じており、今回も「伊豆半島」視察研修会を開催いたします。また、秋の自然の美しさも堪能していただきます。

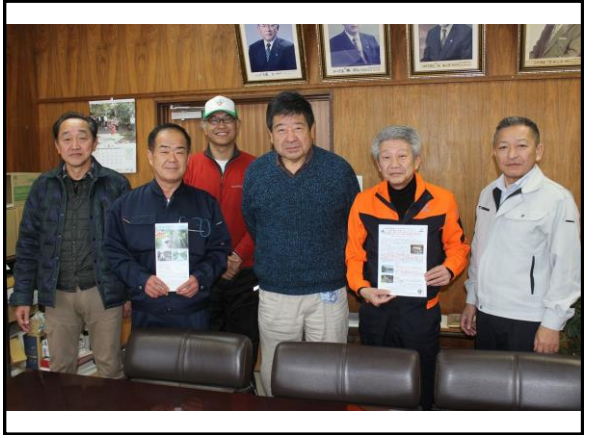
● 申込締切 2024年3月16日(土) 18:00(当日17時)  
 ● 申込方法 申込書・参加費の納入  
 ● ツアーの申込先 グラウンドワーク三島(本社・三島市)  
 ● ツアーの申込先 グラウンドワーク三島(本社・三島市)

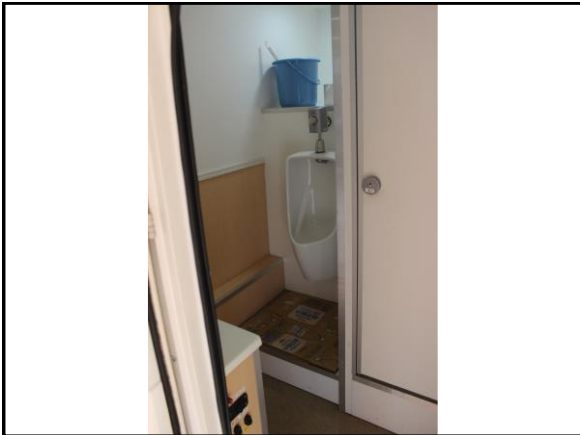
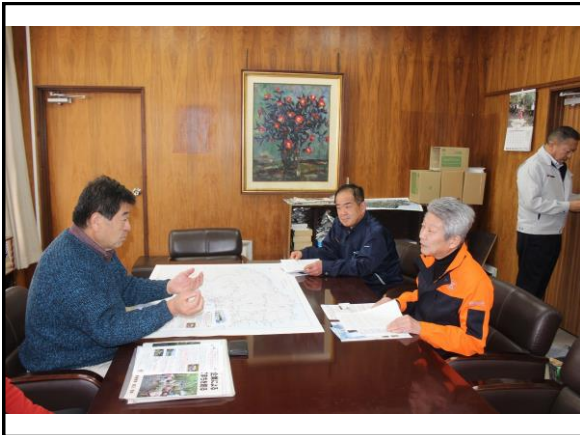
申込書・参加費の納入  
 ● 申込先 グラウンドワーク三島(本社・三島市)  
 ● 申込先 グラウンドワーク三島(本社・三島市)

申込書・参加費の納入  
 ● 申込先 グラウンドワーク三島(本社・三島市)  
 ● 申込先 グラウンドワーク三島(本社・三島市)

申込書・参加費の納入  
 ● 申込先 グラウンドワーク三島(本社・三島市)  
 ● 申込先 グラウンドワーク三島(本社・三島市)

申込書・参加費の納入  
 ● 申込先 グラウンドワーク三島(本社・三島市)  
 ● 申込先 グラウンドワーク三島(本社・三島市)



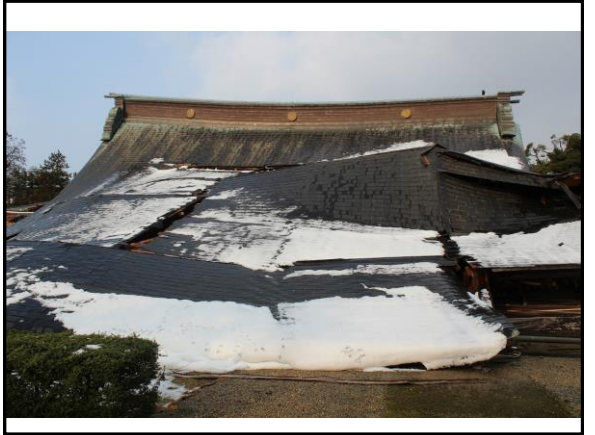






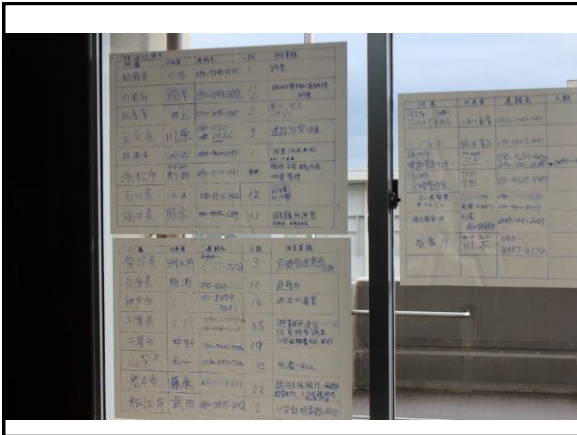












- (1) 過去の震災の教訓が生かされていない**
- ①被災者捜査・救出・援助体制の不備
  - ②断水・停電が発生し、緊急代替対策が未整備
    - 雑用水（井戸、湧水、河川水、雨水）の確保
    - 揚水ポンプ、自家発電機の備蓄
  - ③避難所の事前整備
    - プライバシー確保、ベッド、トイレ等
  - ①地域コミュニティ単位での避難所の自主的・主体的な管理運営の事前トレーニングの必要性と運営体制の構築

- (2) 地域単位での仮設住宅の用意と建設**
- ①地域単位で既存家屋を補修・活用した小規模仮設住宅の建設
    - 地域住民による地域内仮設住宅、公民館、集会場の建設（風呂、シャワー、食堂、休憩場等）
  - ②屋根掛けブルーシート施工（1～2年使用可能）による自宅住居の維持と確保、自宅の避難所化
  - ③公民館、集会場等の耐震化と避難所機能の整備
    - 段ボールベッド、飲料水、簡易トイレの整備、食料の備蓄等

### (3) トイレ環境の悲劇・不備

- ① トイレ対応はすべて「仮設トイレ」に依存、悪臭やし尿の垂れ流し、不慣れ等による悲劇発生  
→ 健康被害、精神的インパクト、関連死への拡大など、人間としての基本的人権を侵害
- ② 移動式水洗トイレの配置
- ③ 行政間ネットワーク網の構築強化による円滑な支援体制の構築
- ④ 杉チップバイオトイレ（大量処理・無臭のノンポストトイレ）の活用

### (4) 高齢者・障害者・子どもたちへの視点・対応を優先

- ① 地域単位での高齢者・障害者・子どもたちの居住状況の把握、マップ化、情報共有、寝室把握
- ② 発災時における救助・救出対策、地域内においての各人の役割分担の構築  
→ 津波、地震、豪雨等、避難時のサポート体制の構築
- ③ 日頃からの災害を想定したトレーニングの実施  
→ 高台への運搬・避難方法、数ルートの確認、ルートと休憩場の整備
- ④ 二次避難所も地域単位での避難場所を確保

### (5) 災害コーディネーター、地域リーダーの存在が円滑化のポイント

- ① 円滑な避難所運営にはリーダーの存在が不可欠
- ② 人や物事の動きを総合的に把握し、複雑な調整・交渉ができる「災害マネジメント」能力を持つ人材育成が必要
- ③ 常時にまちづくりや環境保全・祭り・地域振興を含めた地域リーダーとしての資質と人材育成
- ④ 災害に強い地域づくりの発想が重要
- ⑤ 多様な災害支援NPOとの連携、情報共有の構築

### (6) 災害を想定したインフラ整備、緊急時での必要性

- ① 地域内での危険度の判定・評価、災害想定を行い「災害用インフラマップ」を作成
- ② ここが通行不可なら迂回路はこちら・こうするの「災害対応マップ」を事前に作成
- ③ 災害時の補修整備方法と業者を確定
- ④ 地域の孤立を防ぐための事前対応を準備
- ⑤ 防災から減災・安全に逃げるへの発想転換

### (7) 住宅の耐震化の拡大と支援制度の拡充

- ① 古い家の耐震化は日本全国において命と生活・生業を守る最大の課題、国策としての対応、制度の補助化の強化
- ② 事前の「耐震診断」「耐震化見積」経費の軽減化制度の確立
- ③ 屋根の軽量化への補助制度拡大
- ④ 公民館・集会場の耐震化、避難所機能の強化、軽減化制度の確立
- ⑤ 新たなまちづくり計画の策定と地域ビジネスの起業化、地域産業の復興

### (9) 総括 能登半島地震からの教訓・反省点

- ① 被災者・被災地にすぐに駆け付けられなかった
- ② 想定外に対する事前の準備体制と事前対策の不備
- ③ 被災状況の把握の不備
- ④ 地震への長期的評価・検証・調査の不備と国への他力本願志向の失敗
- ⑤ 他地区への集団的仮設住宅の建設と地域コミュニティ維持の対策（旧山古志村方式の採用）
- ⑥ ボランティアマナーの遵守と役割・立場の確認が不可欠



### **(10) 心のケア**

- ① ストレッサー（心身に不快な反応をもたらす要因）
- ② この生活環境ストレスに耐えられなくなるとストレス反応が現出
- ③ ストレス状態の継続が心身に様々な疾患や障害を発生
- ④ 衝撃的出来事により外傷性ストレス（外傷体験）を発生

### **(11) 心身のリラックス**

- ① リラックスすることで心身の回復機能を活性化可能
- ② 安心して落ち着いた環境にいられる時間と場所を確保
- ③ 人間は人に守られているときに安心できる。見知らぬ人達の励ましを受け多くの人達によって守られていると感じた時に大きな安らぎを感じる

### **(11) 心身のリラックス**

- ④ 「楽しいこと・嬉しいこと・笑うこと」により感情と行動の自己コントロールを再生できる
- ⑤ ユーモアや笑いはストレスを低減させ、免疫力を高める。特に子ども達は、遊びで楽しい活動をすることで、不安や恐怖の気持ちを克服できる
- ⑥ 「好きなこと、熱中できること」を体験・実感させることがストレス軽減につながる